（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人　誠和会		
事業所名	グループホーム　コージー　（グリーンユニット）		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	ww.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200420-00&PrefCd=33&Versi

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方２丁目１３－１　県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

月1回、個別活動の日を設け、各担当職員が日ごろの生活様子や会話の中より、入居者がやってみたいことなどを感じとり活動を提供している。職員とゆっくり話をしながら作品作りや散歩、おやつ作り、ドライブ、外食などへ出掛けている。作った作品は、居室の入り口へ飾り披露している。畑仕事や花を育てる事が趣味の方には、一緒に買い物に行き、花を選んだり、植えたり、季節ごとの野菜について育て方を聞き趣味が継続できるように援助をしている。また、集団活動では、月2回音楽療法士による音楽療法や各季節を感じてもらえるよう、お花見、夏祭り、餅つきなど行事を計画し、入居者の方だけではなく家族の方にも参加してもらい一緒に楽しんでもらえるように取り組んでいる。入居者の方に安心して生活してもらえるよう、日々状態の観察を行い異常の早期発見に努めている。医師や看護師と情報を共有し連携している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設7年目を迎えるホームは、昨年外部評価の隔年実施適用申請をし免除となっていたので2年ぶりの訪問になった。利用者の入れ替わりも少なく、3年前就任した現施設長、各ユニットリーダー2名が中心となり、活気あるホームを作り上げている。月1回「ご本人様との意見交換会」を設けており、個別に時間を見つけて居室でじっくり一人ひとりの意見や要望を聞き取り、利用者本位のケアを実践している。人生の集大成として自作の「短歌」「絵画」等の作品集を家族の協力を得て編集している利用者もいて、このホームの目標の1つでもある「家族と共に入居者のために」の良いお手本になっている。高齢化、重度化が進み以前出来ていた事が出来なくなってきたのは否めないが、身体面だけでなく精神面からも個別の支援をして本人の望んでいる事を出来る限り実現させようと職員は日々取り組んでいる。職員の若いパワーが溢れた、素晴らしいホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念、コ―ジ―の目標を心がけ、家族と協力しなが、暮らしやすい、第二の我が家と思ってもらえるように取り組んでいる。	コージーの目標の1つでもある「家族と共に入居者のために」をかかげ、毎月行事計画を立て家族も参加して一緒に過ごしてもらう事で、利用者の生活も支えてもらっている。家族の協力や面会も多く良い関係が構築できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川掃除や勉強会に職員が参加している。また法人内で行われるお祭りへ参加したり、小学校の運動会の応援、高校の行事への招待、ボランティアで踊りを披露をしてもらったりと地域の方との交流を図っている。	地域の祭りや運動会の見学等、地域との交流も定着しており、小学校、中学校、高校等の児童・生徒との交流もある。地域のボランティアの訪問があり、踊りや歌等を鑑賞して楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や看護、リハビリの学生の実習を受け入れ、同法人が受け入れた実習生に見学や説明をしている。 また、中学生の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、家族や地域、他事業所の方からの意見をチーム会や上司から報告し、検討しサービスの向上に努めている。	隣の小規模多機能ホームと合同で2ヶ月に1回開催し、市の担当者、包括、地域代表、他GH，家族等の参加がある。参加者からは利用者と職員の年齢差があり、同年代でしか分からない事もあるので、ホームへ訪問して良いか等の提案も出た。実現させようと思っている。	運営推進会議では有意義な意見交換をしている様子が議事録からもうかがえるが、意見や提案がどの立場の人の発言なのか記載がない。簡単な表示でも良いので、表記してあると分かりやすいと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ介護保険課や地域包括支援センターの参加があり、活動報告をしている。必要時、相談し協力を得ている。	市の担当者や地域包括職員とは運営推進会議で毎回情報交換や意見交換をしている。最近では市の担当者に電話で職員体制や運営面での相談をした。何かあるとその都度相談し助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会で定期的に、マニュアルやケア方法の見直しをしている。アンケートを実施し勉強会を開催する事でケア方法の見直しを行っている。	玄関の施錠はしていない。外出願望が強く、離設リスクの高い人のいるユニットは職員が付き添い、見守りをしている。外に出た時には他部署の職員の応援を頼む事もあり、捜索マニュアルも作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会が勉強会を開催し、職員に周知徹底している。また、内部外部の研修会に参加し知識の向上に努めている。アンケートがケアについて振り返る機会となっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の該当者はいないが、研修に参加し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。また、契約書・重要事項の変更や入居後意見などがあれば、説明を行い理解を得たうえで承認を頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見を活動に取り入れるように心がけている。家族の来訪時には、近況報告をしている。月に1回生活の様子便りを送付、また、毎月の状態報告をし意見交換をしている。	毎月担当者から写真と生活の様子を手紙で知らせ、状態の変化がある時は随時電話で伝えている。年1回家族会を開き、ケアについてのアンケートを行い集計・検証をした。利用者との意見交換会もしており、意見や希望を記録にまとめ職員間で共有している。	家族会やアンケートを実施して、意見や要望をよく拾い上げて運営にも反映している。更に利用者と個別の意見交換会もしており、時間を見つけて居室で聞いているとの事。今後も今以上に本音が言いやすい雰囲気作りを工夫して下さい。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と意見交換を行うため、月に1回チームミーティングを開いている。ミーティングに参加出来ない職員に関しては、事前に意見を聞くようにしている。その都度ミーティングを開催している。	毎月各ユニットでミーティングを行ない、業務の事やケア方法を話し合ったり、連絡ノートにヒヤリハットを記入して意見交換をし職員間で共有している。管理者と各ユニットリーダーが中心となり職員間のコミュニケーションもよくとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、随時個人面談を行い人事考課、目標の確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加する機会を設け、職員一人一人のケア技術の向上に努めている。ホーム内でも勉強会を開催している。外部研修に参加し参考になったことはホームで取り入れている。新入職員は、入社時教育の時間を設けている。また、法人内で講師となり発表や勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、他施設と情報交換を行っている。良い意見は、資料や委員会で報告し職員へ報告、現場で生かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より、密にコミュニケーションを図り、心配事や不安に感じていることを汲み取り対応する事で不安の軽減に努めている。1対1で寄り添ったケアを行う事で信頼をえらるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の要望、思いを聞いている。入居後は随時、現状報告し心配や不安な事、要望があれば話を聞き、安心して生活あできるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族から困っていること、サービスを受けている事業所からも情報を聞き、状況を確認し職員間で話合い検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付けのタッパー拭きや洗い物、掃除など家事活動を声かけしながら一緒におこなっている。自発性が無い方には、作業の輪の中に入り職員がサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、随時状態の説明を行っており、家族の意向・希望を確認している。毎月の行事に家族にも参加してもらい、入居者と家族が過ごせる時間を設けている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰りたいと希望がある方には、家族の方に協力をしてもらい外出や外泊する機会を設けている。また、知人の来荘時には、リビングや居室で過ごせるようにしている。	日頃から面会も多く、協力的な家族が多い。2日に1回は妻が面会に来る人、盆・正月には自宅へ帰省する人もいる。入所が長い人は利用者同士が馴染みの関係になっている事もある。家族との絆を大切に関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりが持てる様に月に1回行事を計画している。また、普段から体操や歌等のレクリエーションに取り組むことで利用者同士の交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携を取りながら必要に応じ、情報収集、情報交換をしている。法人内の施設へ退去した方の所へ会いに行くこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と月1度の意見交換会で出た希望や要望を聞き、要望に答えられるようにケアを行っている。人前で話にくい方には、個別に要望を確認している。	画集作りに挑戦中の人の目標は、これまでの自作の「短歌」や「絵画」をまとめる事であり、生きているうちに完成させたいと意欲的で、編集には家族の協力や職員の支援もある。毎月の利用者との意見交換会で思いや希望を聞き取り、生活の中に取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族へフェイスシートに生活歴を記入してもらい情報収集を行っている。入居後も日々の会話や家族との会話の中から生活歴を知り、職員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から様子や状態を観察し変化があればカルテに記入し、チーム会で一人一人の様子を話合い、情報を共有して状態を把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にもカンファレンスに参加してもらい、家族の意見も反映させ、本人の希望や状態を把握し医師や看護師、リハビリと連携をして意見を求め作成している、	ケアプランは居室担当の職員と相談しながら、計画作成担当者が作成している。日頃のコミュニケーションから利用者・家族の意向を汲み取ってプランに反映させており、現実的で実施可能なことをプランにあげ達成度を見て次回のプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やモニタリングシート、月１回のアセスメントシートに評価を記入し、カンファレンスにて検討している。また、プランの評価、新しい評価ができた時には、スタッフ全員で確認し把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが発生したら、本人や家族の要望を確認し対応方法を検討していく。また、法人内の専門職へ相談し意見を取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の行事や地域での行事に参加している。買い物に出掛けたり、公園に散歩、ドライブに行くなど外出して気分転換を図っている。また、託児所の子供達とふれあう時間を作っている。孫、ひ孫が来てくれたと喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医、訪問診察や訪問看護など連携を密にし、状態把握に努めている。状況の変化があれば随時報告している。	1名を除き残り全員が母体の倉敷紀念病院の医師が主治医である。現在7名が外来、10名が訪問診療を利用している。訪問診療は、個別での訪問と月1回の全体往診がある。訪問診療や訪問看護との連携も良く出来ている。他病院への受診は原則家族に付き添いをお願いしているが、緊急時には職員が同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や本人の表情を観察する事で、異常の早期発見に努めている。異常時には、訪問看護に報告、相談しアドバイスのもと対応している。週1回の訪問日には看護記録にて情報交換し、職員全員が状態の把握が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は随時面会に行き、本人が安心して治療を受けられるように支援している。早期退院できるように医療関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族・医師と相談し状態に応じた施設サービスが受けられるように援助している。入居相談時や入居後も随時、家族に医療の意向説明、確認を行っている。本人と家族の方からの希望を聞き看取りを行っている。	開設7年になるが、3年前からホームでの看取りを始め、今まで4名の看取りを経験した。先月も1名、家族が持参した本人の好物を食べてもらい、家族に看取られて旅立った。まだ看取りの経験が少ない職員もいるので、看護師よりケアについてアドバイスがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに勉強会開催し、デモンストレーションを実施している。その都度、見直し、確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練実施し、法人内の各施設より駆けつけ訓練を行い、火災時など協力体制がとれている。また、他部署から評価をしてもらい意見を参考にしている。災害時時のマニュアルがあり周知徹底している。また、水害時には隣接している特養と協力をし避難を行う。	法人の他施設と合同で定期的に避難訓練を行ない、利用者も参加して災害時に備えている。緊急時には他部署からの応援や協力体制が出来ているので心強い。災害時の避難場所はすぐ近くの母体の医療機関になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケア方法についての勉強会を開催し、ケアについて見直しを行っている。気がついたことがあれば、その都度チーム会で見直している。	居室にはコールがついていない。そのため、転倒リスクの高い入居者が居室で過ごす時、ドアを開けたまま行動把握するのではなく、細目に訪問し声かけコミュニケーションを図ったり、居室からの声やコール代わりの鈴が聞こえるように、家族へ説明し要望、了解を得てドアを少し開けさせてもらっている。また、法人全体で呼称については一昨年より「○○さん」という呼び方に統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しを傾聴し、自分で決めることが出来るようにサポートし、上手く希望が伝えられない方には、個別で会話をする機会を設け伝えやすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決めているが、本人の意思を大切にし、入眠、起床、食事、入浴時間等、それぞれ本人のペースや体調に合わせ希望や要望に沿うような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に来てもらい、カット実施している。同じ美容師が来てくれるため、顔なじみとなっている。身だしなみを整える事が難しい方には、本人の意見を聞きながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやランチョマット、タッパー拭き等の家事活動は入居者と一緒に行っている。毎月、旬の食材を使った行事食を提供しており、皆さん楽しみにしており好評である。コージーへ調理師や栄養士が来てくれ天ぷらやお寿司の実演がある。出来たてが食べれる機会がある。	毎月給食会議があり、委託会社の管理栄養士・調理師に利用者の意見や要望を伝える事が出来、献立につながっている。個々の食事形態に合わせて調理済みの食材が運ばれ、定期的に言語聴覚士に嚥下状態や摂取状況をみてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの良い食事のメニューを作っている。 食事、水分量をチェックし把握している。水分が少ない時には、こまめに声かけ、ジュースやゼリーにて水分提供している。食事量が少ない時は、本人が好きな物や高カロリーの栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。磨き残しが無いよう確認している。義歯の清潔保持の為、毎日ポリデントを行っている。 希望がある入居者は、受診や往診をしケアを行っている。往診時には、その方にあった口腔ケアについて相談、指導をうけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、定時にトイレの声掛けを行う事で、パッド内の失禁が少なくなる様にしている。紙パンツやパットを使用している方は、状態をみながら布パンツへと変更をしている、下剤の調整は、医師や看護師と相談している。	排泄が自立している人は数人。介助が必要な人でもこまめな声かけと誘導を行ない、他施設で紙パンツだった人も布パンツに変更する事で自立支援や費用の軽減につなげている。夜間、トイレが心配な方は居室でポータブルトイレを使用している人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量等の管理、散歩や体操などの活動を取り入れている。腹部マッサージやホットパックを行い、下剤をなるべく使わないように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望と病状に合わせながら入浴を検討している。入浴拒否がみられる方へは、毎日入浴の声かけを行い、その方のペースに合わせている。	2日に1回の入浴を基本としているが、高齢化に伴い浴槽を跨ぐのが難しい人が増えた為、H27. 12月にリフトを設置し、リフト浴を開始した。現在リフト浴3名を二人介助している。拒否が強い人には家族に協力してもらう等、様々な工夫をしているが、本人が入ってくれる気になるのを待っている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にウッドデッキに出て過ごしたり、ソファーにてゆっくり過ごせるようにしている。 昼寝をしたい人は、居室やソファーにて休んでいる。夜寝れない方へは、リビングで話をしたり、温かいお茶を提供している。室内温度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いように職員2人でダブルチェックを行っている。くすりの効能、副作用が確認出来るようにカルテに挟んでいる。また、法人内で行われる薬の勉強会に参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日の日には、家族と一緒にお祝いをしている。また、以前からの趣味である短歌が継続して行えるよう、お題の提供や他の方へ見てもらえるよう作品を新聞へ載せている。その他、編み物や裁縫が得意な方には、座布団やティッシュケース作りを依頼し、出来た作品はグリーン棟内で使っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意見交換会や日々の会話の中から、行きたいと頃を聞き、お花見や紅葉ドライブなど行事に取り入れている。家族の方に行事へ参加してもらうことで、普段外出することが苦手な方も出掛ける事が出来、楽しんでいる。	酒津公園へ花見、紅葉見学と秋のドライブ、レストランへ外食等、行事計画を立て非日常を楽しんでいる。職員と一緒に近くのスーパーへ買い物に行き、文房具等を自分で選んで買う人もいる。本人から希望を聞き、行きたい所へ行く個別支援を大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい為、立て替え金で対応しているが、スーパーや薬局、外出先での支払いは本人にしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いが出せるようにしている。電話の希望時には、家族や知人に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候をみながら、空調管理、温度調節を行い、過ごしやすいよう環境を作り、心がけている。 花や植物を置いたり、植え替えをしたり季節を感じてもらえるようにしている。	両ユニットの間にウッドデッキがあり、日光浴・外気浴・お茶会等をして活用している。リビングは広く天井も高いので広々と開放的であり、テーブルやソファがほど良い間隔で配置され、歌を唄っているグループやテレビで高校野球をみている男性利用者もいて、好きな場所で寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で会話や活動が楽しめるよう、椅子やテーブル、ソファーの配置している。職員が間に入り活動を通して交流できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用してもらったり、花の世話が好きな入居者は、植物を居室に置き世話をしている。 世話が難しい方は、職員と一緒に行っている。活動で作った作品を飾ったり、家族の写真を飾っている。	各居室前のネームボードには、1つは本人の写真、もう1つにはぬり絵等の作品展示スペースにしている。動物好きな人の部屋にはぬいぐるみが沢山あり、愛読書、家族の写真、手作り作品等が展示してある。それぞれに個性豊かで居心地のよい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動のスペースを十分に設け、移動しやすいよう、家具の配置に配慮している。 居室では、自立してその人らしい生活が送れるよう、本人、家族の要望を聞いたり、転倒の可能性が高い方には、センサーを設置するなど転倒予防に努めている。		